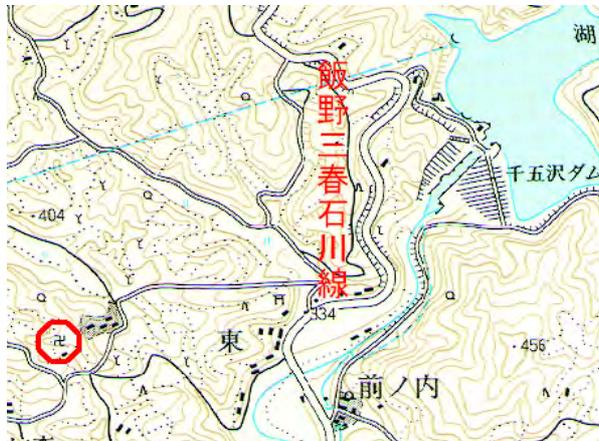


# 石川町資源調査調書

通し番号	32	整理番号	3	-	006	作成	平成19年2月
名称	ソウトウシュウ ハンキョウザン コウトジ 曹洞宗 板橋山 光渡寺				項目	寺院	
管理	住所	石川町大字板橋字沢古屋319					
	連絡先	石川郡浅川町大字白石曲屋357長徳寺 TEL 0247-36-4072					
	管理者及び所有者	現住職 川崎文雄（兼務）					
概要	<p>本山 永平寺 福井県吉田郡永平寺町、総持寺 横浜市鶴見区鶴見町          本尊 延命地藏菩薩 開山 顕室文助大和尚          開山年 天文22年子年（1553年） 開基 板橋院殿光渡明額大居士          宗祖 永平道元禅師、総持瑩山禅師</p> <p>当寺は板橋氏の菩提寺として、天文22年(1553年)板橋家十九代板橋駿河守守種好公によって創建された。開山は、石川町長泉寺第九世顕室文助大和尚である。山号となった「板橋の地は、白河古事考によれば、南北朝時代の観応3年(1352年)卯月13日、当時奥州管領であった吉良貞家の推挙状に見られるように「石川板橋掃部介高光申所領陸奥石川庄の内、千石板橋、八幡宮神領下河辺村沢尻等之事」とあり、石川一族の所領である板橋氏の家名からとったものと思はれる。</p> <p>檀家の戒名を記録する過去帳の最も古いものは元治元年(1864年)のもので、この記録によると檀家は板橋村と南山形村の二か村であった。慶応元年(1865年)石天恵光大和尚住職の時代に、板橋村庄屋芳蔵、南山形村庄屋長平の発起によって檀中に寄付を募り、白河の阿部右近の揮毫によって「板橋山」の山号額が献納された。また同年、檀家総代板橋新兵衛によって本堂前の石段が整備された。</p> <p>堂内の寄付単に、明治42年12月と昭和11年12月の2回に亘って殿堂屋根ふき替えの材料となる茅がなく、屋根を入母屋に改造し亜鉛メッキ鋼板葺とする。昭和44年5月かや葺きの庫裡を取り壊し、25坪7合5勺の庫裡平屋を新築する。</p>						
参考文献	<p>石川町地方寺院めぐり(非売品)</p>						
関連項目							
備考							
写真及び位置図等							
							
全景				位置図			

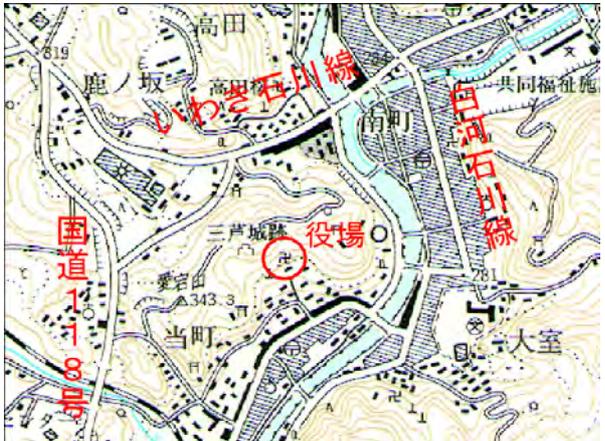
# 石川町資源調査調書

通し番号	33	整理番号	3 - 007	作成	平成19年2月
名称	シンゴンシュウ チサンハ チュウボサン ジョウコウジ 真言宗 智山派 中母山 浄光寺		項目	寺院	
管理	住所	石川町大字母畑字七森237			
	連絡先	TEL 0247-26-6681			
	管理者及び所有者	現任職 鈴木信教（第三十三世）			
概要	<p>本山 総本山智積院、大本山成田山 新勝寺、大本山川崎大師 平間寺、大本山高尾山 薬王院          本尊 大日如来（金剛界） 宗祖 弘法大師 空海上人          中興の祖 興教大師 覚鑠上人</p> <p>石川町史によれば          元禄元年(1688)5月、東母畑寺前から現在地、大字母畑字七森地内に移され、明海和尚により再基されたと伝えられ、東母山浄光寺から中母山修行院浄光寺となる。当寺は、石川町乗蓮寺の末寺で、修行寺としてその役目を果していたようである。住職不在の時代が長く、寺の歴史を語る史料がほとんどない。          住職名などから、乗蓮寺住職の名が多いのは、兼務のためか、それとも浄光寺から乗蓮寺住職に移ったのかは定かでない。          現住職、鈴木信教になるまでの経過はおよそ次のようである。          明治25年(当時智山派、豊山派合同時代)          郡山如宝寺(真言宗豊山派)住職鈴木信教は、浄光寺世話人の木戸氏等の懇願により、身内である弟子鈴木信徴を浄光寺住職として派遣した。同年信徴の普山式に参列した信教和尚はかぜのため、石川町薬王寺で他界した。以後、信徴の子に僧席に着く者がなく、信徴の孫、鈴木弘範によって昭和42年浄光寺は乗蓮寺の兼務を解かれた。平成4年、弘範死後、東福寺住職縫紹真和尚兼務後、平成九年弘範の甥鈴木信教が住職として現在に至る。</p>				
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)				
関連項目					
備考					
写真及び位置図等					
					
全景			位置図		

# 石川町資源調査調書

通し番号	34	整理番号	3	-	008	作成	平成19年2月
名称	ソトウシヨウ タイシザン ショウタクジ 曹洞宗 太子山 聖徳寺				項目	寺院	
管理	住所	石川町大字中野字水無35					
	連絡先	TEL 0247-26-6203					
	管理者及び所有者	現任職 小林良孝（第二十九世）					
概要	<p>本山 大本山永平寺、大本山総持寺      本尊 釈迦牟尼如来          開山 功巖玄忠大和尚      開山年 慶長三年（西暦1597年）          開基 不明      宗祖 永平道元大和尚、瑩山紹瑾大和尚</p> <p>当寺は玉川村大安寺の末寺で六世の功巖玄忠和尚により創立された。享和2年3月8日十七世吸海露珊和尚の代に火災に罹り過去帳外の記録類はほとんど焼失して詳しいことはわからない。二十一世大徹悟和尚が文政三年諸堂再建をされ昭和に至ったが当時は檀家も少なく大変だったと思われる。その後本堂庫裡の老朽が激しく昭和49年庫裡改修、59年庫裡増築、平成5年本堂位牌堂を再建し普山結制落慶法要を厳修、6年9月檀家各位と共に大本山永平寺参拝をした。</p>						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目							
備考							
写真及び位置図等							
							
全景				位置図			

# 石川町資源調査調書

通し番号	35	整理番号	3	-	009	作成	平成19年2月
名称	シンゴンシュウ セイカンザン ショウレンジ 真言宗 西館山 乗蓮寺				項目	寺院	
管理	住所	石川町字下泉305					
	連絡先	TEL 0247-26-2329					
	管理者及び所有者	現任職 西館道範（第六十一世）					
概要	<p>本山 智積院 本尊 上品阿弥陀如来 開山 乗観上人 開山年 承和三年（836年） 宗祖 弘法大師 中興 興教大師（覚鑿）</p> <p>当寺院は、奥州四箇本山・東奥談林・西館山蓮華院乗蓮寺と号し、仁明天皇の御代承和3年3月8日、南都法相宗の学僧乗観上人により西館山の西南の地に開山創建された。後に山城の国嵯峨の大覚寺派に、元和9年、醍醐報恩院派に移り、更に真言宗智山派となる。ご領主、石川氏代々の帰依を受け、三蘆城西出丸守護祈願寺として崇敬され、茶室としても使用されていた。豊臣秀吉の小田原攻め不参により石川氏滅亡後一時荒廃したが、江戸期、三代将軍家光公より由緒格式ある寺として、奥州四箇本山の称号と寺領下賜の朱印状を受け、徳川御朱印寺として石川・須賀川・矢吹・古殿に42の末寺を統括、常法談林の名刹として僧侶の育成・任命・布教・教化活動の拠点となり興隆を極めたが、元文3年、堀の内の火難にあい、ご本尊・桂昌院(五代将軍綱吉公の生母)お位牌・梵鐘・駕籠・鞍等を残して悉く灰燼に帰した。後、法印俊海僧正により宝暦2年に至り、絵天井・両面彫り欄間彫刻の内外陣を備えた金堂、山門（昭和33年事故により倒壊）、東庭園が再建、造営された。明治12年には、大本山成田山新勝寺より不動尊が勧請された。平成14年吉日、檀信徒の菩提心を結集して永代供養・世界平和祈念塔が建立され、参拝の皆様から寄進される浄財はすべてユネスコに送られ尊い布施行となっている。代々を経て真言密教の法灯を今に伝えている。</p>						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目	乗蓮寺の銅鐘（5-013）						
備考							
写真及び位置図等							
							
全景				位置図			

# 石川町資源調査調書

通し番号	36	整理番号	3	-	010	作成	平成19年2月
名称	ソトウシユウ ヲウケンサン チョウケンジ 曹洞宗 高原山 長泉寺				項目	寺院	
管理	住所	石川町字高田271					
	連絡先	TEL 0247-26-2009					
	管理者及び所有者	現任職 西川一英（第三十九世）					
概要	<p>本山 大本山永平寺、大本山総持寺 本尊 延命地藏菩薩          開山 即庵宗覚大和尚 開山年 永享8年（1436年）          開基 三芦城主石川氏十八代義光公、三芦城主石川氏十九代持光公          宗祖 永平道元禅師、総持瑩山禅師</p> <p>当寺の前身は天台宗地藏院と伝えられる。室町時代中頃、三芦城主石川駿河守義光公は先瑩の巖峰寺が城地より遠隔であった為、三芦城の北・矢の目の地に一字を建て高原院と称した。その後永享8年（1436年）十九代持光公は父君義光公の菩提を弔うため、高原院を改め高原山長泉寺と号し相模国大雄山叡乗寺春屋和尚の法嗣、即庵宗覚和尚を招聘し開山の祖とした。二世大仲慶徳（持光公の弟）は蓬田の法伝寺を開き、以来九世までの歴住は繁松院（石川町）永昌寺（浅川町）保泉寺（小野町）円通寺（玉川村）長沢寺（大信村、廃寺）光國寺（曲木）光渡寺（山橋）等の諸寺院を開山し即庵派の門風を拳揚した。</p> <p>天正18年（1590年）太閤秀吉の奥州仕置により石川氏の所領が没収されると、時の城主二十五代昭光公は石川退去を決断し甥の伊達政宗を頼って家臣団とともにこの地を後にする。その後、伊達家臣となった石川氏は宮城県角田一万石を与えられ、城下に牌所として高原山長泉寺を建て、それまでの末寺八ヶ寺を角田長泉寺の末寺とした。石川長泉寺の末寺はその後十二世台庵鏡の開いた長徳寺（山白石）がある。</p> <p>文政4年（1812年）火災により堂宇、什物、古記録等すべて灰塵に帰してしまった。現在の建物は安政4年（1857年）に再建されたものである。</p>						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目	高田桜（1-001） 石川氏（5-001）						
備考							
写真及び位置図等							
							
全 景				位置図			